

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふじトピア
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	静岡県 藤枝市
記入者名 (管理者)	大石 多美
記入日	平成 21年 2月 16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職務を行う上で、共通の認識として常に理念を理解し、意識して取り組むことが現実的な課題である。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	運営推進会議や、地域とのお付き合いを深める機会を持ち、理念を理解していただけるよう取り組む必要がある。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	交流が少なく、地域の町内会の行事などにより積極的に参加させていただく余地がある。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人としての母体、各事業所の組織力を活用し、全体としての地域貢献への取り組みがなされている。	○	グループホーム事業においては、具体的な地域高齢者への貢献はなされていないので、今後検討していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価の結果を職員会議や運営推進会議にて報告し、課題に対して共通認識を持ち、取り組んでいる。	○	評価をもとに、「生活援助計画」への取り組みをはじめた。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ホームの状況、利用者の状況を報告し、参加した委員のそれぞれの立場からの率直なご意見、ご提案をいただいている。またそれを職員会議にて報告、日々のサービスに活かすよう努めている。	○	運営推進会議の開催回数が少なく、委員への日々の状況の変化の報告が不足気味。又、委員からの意見が少ないので開催回数を増やしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当から、情報をいただき、報告を行うなど、随時連絡を図っている。	○	今後も、より良いサービスを行っていくために、市町村とのより密度の濃い連絡、報告、相談を実施していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人として、専門担当者から学んだり、研修を受ける機会があり、必要な場面での活用に備えている。	○	職員全体への制度の認知を深め、より専門性を身につける必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として身体拘束ゼロ宣言をし、研修や委員会において身体拘束を行わないための認識強化を実施している。	○	言葉による抑制を課題として掲げ、問題意識を継続して取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、不明な点にも応じて説明をしている。苦情等の受付窓口が内容に応じて複数ある点も説明を実施している。解約時にも不明、不安な点への詳細な対応説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の利用者の心身の状態観察の中で、変化を汲み取り、また、ご本人やご家族から直接意見をいただき、運営や個々のケアに活かしている。	○ 第三者が直接利用者の意見、不満、苦情を受け付ける機会を望みたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時や、受診、健康変化の報告時など、都度ご家族に状況をお知らせし、相談も随時行っている。金銭管理は月一回領収書と納帳を送付している。広報誌は法人として季刊誌を発行している。	○ 個々の利用者の状況をお知らせするお便りを発行し、日々の暮らしの写真を添えて報告するよう取り組みたい。職員の異動、退職についてのお知らせが行き届いていない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口が複数存在することを契約時に説明している。面会時に記入いただく「面会記録簿」にご要望・苦情等の記入欄を設けると共に、直接職員にご意見をいただきやすくなるよう、利用者の様子を報告し、ご家族とご本人のご意見を伺うよう努めている。	○ 苦情や不満を気兼ねなく率直に現していただけるような体制、雰囲気づくりをすすめていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のカンファレンス、職員会議、伝言ノートなどでさまざまな意見が上がり、職員間で話し合いがなされている。	○ 意見や提案をより柔軟に忌たなく表せるような雰囲気づくりを全体で取り組んでいきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や受診など、利用者やご家族の状況に対応が出来るよう、可能な限りの調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の異動や離職を極力避けるよう、必要時には懇談を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、施設外の研修の機会には、参加を促し、外部研修への参加は、出勤扱いにて配慮している。	○ 認知症高齢者介護の専門職としての知識、技術取得をより多くの職員に浸透させるよう、継続して研修体制をすすめていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて同業者と交流する機会があり、また、同業者の訪問を受け入れ、印象や意見を得て、サービス充実への一端とさせていただいている。	○ ネットワーク作りや相互訪問は機会としては少なく、より充実させて質の向上につなげていく必要がある。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者が職員会議に参加し、職員の不安や不満、業務の困難点を直接聞く機会があり、労働環境の改善への取り組みを行っている。	○ 職員の健全な心身の状況が合ったうえでより良いサービスがなされるため、今後もストレスの軽減の工夫、環境づくりへの取り組みをより充実して行うことが求められている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が職員会議に参加し、職員個々の状況を把握する機会を持っている。個々の職員の勤務の要望も把握し、可能な限り要望に沿うこととしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に、ご家族と調整後必ず自宅訪問し、人間関係を築くアプローチをしながら、生活されている様子、雰囲気、間取り、ご家族との関係などを確認し、不安なく入所の段取りが進み、入所後のケアに活かせるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学希望、問い合わせ時に、実際に見学をしていただき、困っていること、不安なこと、求めていることなどを、時間には余裕を持って伺い、応じている。入所後相談があった場合は、管理者に報告し、対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとしての主旨説明をし、ご理解をいただきながら、その方の状況に応じた他施設、他事業所のサービスの選択肢があることをお伝えし、説明を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	要望とご本人の状況により、お試し入所の選択肢があり、最初に短期の入所にて、本人の暮らしのペースや他人所者と馴染めるかなどの不安を取り除けるような運びも可能であることを、お伝えしている。入所されてからは、自宅への外泊、外出にてご家族のご協力をいただき、徐々にホームでの暮らしに馴染んでいただけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活暦をよく理解するよう努め、その方らしい暮らしを出来る限り継続できるよう取り組んでいる。その中で、利用者に教えていただけること、共に暮らす人対人の関係で支え、支えられる機会を得ている。	○	場面により、利用者を介護されるだけの立場においてしまうことがある。支援を必要とする方であっても、その方の持っている生きる力が、職員にとっても支えになるということをより大きな意味として認識し、それを継続して尊重していけるよう努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力、ご理解をいただき、また、ご本人とご家族との関係性を知る上で、ご本人を支援していく力をいただいている。面会時に日々の様子をご報告し、ご家族との外出等の場面のサポートをしている。	○	同上
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時のご家族との面会の折に、ご本人とご家族とのこれまでの関係、出来事をうかがうことが出来、プライバシーの保護に配慮しながら職員間で情報を共有して支援に活かしている。また、現在の暮らしの様子を都度ご家族にお知らせし、穏かな時を共有していただけるよう支援している。	○	同上
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との会食、親類、理容店など、馴染みの関係を継続できるように、ご家族のご協力を得ながら、支援している。	○	同上
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係について、日々のカンファレンスの中で職員間で情報を共有し、可能な限りほど良い距離をお互いに保てるように留意している。	○	同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した方が系列の施設にいらっしゃることもあり、機会があるごとにお会いしてご挨拶をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし振り、状況から、本人の意向を導き出し、カンファレンスにて職員全員が共有している。	○	より細やかに、本人の意向を導き出すケアを行っていく。生活援助計画の用紙を活用し、一人ひとりにあった、計画的で継続的なケアに活かしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族のご協力を得ながら、必要事項の聞き取り、確認、センター方式の用紙を活用して行い、状況把握に努めている。	○	同上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの現状を介護記録にて職員全員が共有し、カンファレンスでの話し合いで総合的に理解するよう努めている。	○	同上
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題について、利用者本人、ご家族の意向、意見を踏まえて、カンファレンスを行い、また利用者本人やご家族、医師などとの話し合いに反映させている。	○	同上
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状況の変化について、申し送り、カンファレンスの結果、最善の方法を当面の対応としている。ご家族に計画書についてのご意見や同意をいただいている。	○	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、健康管理チェック表、申し送り事項一覧表、環境整備チェック表、日報などに日々の状況を記入し、毎朝のカンファレンス、申し送り、月に一度の職員会議にて情報共有、実践報告、改善等を行っている。	○	同上
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所時の系列他事業所との情報交換、系列母体と共同の祭り等のイベント、系列デイサービスのレクリエーションへの参加、系列医務室への相談などを行っている。	○	引き続き、系列事業所との連携にて柔軟な対応を行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの定期的な訪問で、協力をいただいている。系列母体と共同で消防、防災訓練を行い、消防などの協力を得ている。	○	今後も各機関の協力を依頼し、より安心、安全、快適な暮らしを支えることが出来るよう、充実させていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービスは現在使用していない。	○	同上
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において、ご意見をいただいている。	○	同上
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者に主治医、かかりつけ医がおり、ご家族のご協力を得ながら、医療を受ける援助をしている。	○	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族の協力を得ながら、個々の主治医の定期的な診断、治療を受ける支援をしている。	○	同上
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	系列母体の医務室に、必要に応じて相談している。	○	同上
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、管理者が病院に出向き様子確認と退院に向けた各関係者との打ち合わせにも同席している。退院後、速やかに以前の日常生活に戻れるように、日常生活上の留意点、確認等をしている。	○	同上
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に対し、緊急時並びに重度化時の対応の意思確認に努めている。連絡優先順位、救急車要請の有無などを確認している。	○	現在、安定して過ごされている方においても、いずれADLが低下されることを前提に、何事も起きる可能性があることをご家族に常に理解いただきながら、引き続き、意識の整備に努めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族には、特別な医療が必要となった場合は、当事業所にて行うことが可能な範囲を超えてしまう点をご確認をいただいている。	○	同上
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人やご家族にとって、不安材料となる要因を出来る限り取り除くことが出来るように、情報を共有し、受け入れ先の機関には、ご本人についての情報を提供することで継続したケアが行われるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の入室の際の声かけや書類の管理、記録の方法など、取り扱いに留意している。	○	トイレ介助など排泄に関して、尊厳の保護が完全に保たれていない。尊厳に配慮した言葉かけ、他の利用者への排泄状況の漏れなど、より配慮ある対応に努める必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	無理強いすることなく、本人の希望を確認して支援をしている。	○	引き続き、ご本人の自己決定の場面を作り出すよう、希望の表出の必要性を認識し、取り組んでいく必要がある。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外出、レクなどの参加には、個々の意見を確認して行っているが、起床や食事などの時間は、一律のルールが出来上がってしまっている。	○	ご本人のペースを尊重した対応が出来る限り可能なように、工夫をしていく余地がある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧品や衣料品の購入は、一緒に買物に出かけて選んでもらったりしている。理美容は、ご家族のご協力を得て馴染みの店にて行ったり、定期的な訪問美容を取り入れている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の得意不得意や、できる力に合わせて、野菜切り、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど声かけをして一緒に行なっている。	○	個々の好みや力を活かす支援をより強く心がけていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌を楽しまれる方に対し、ご本人の体調、安全面を考慮しながら、楽しんでいただけるように支援している。好みのおやつを選んでいただけるように、時々和菓子屋にお連れしている。	○	安全、体調への配慮を念頭に置きながら、好みを出来るだけ尊重する支援を努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に都度記入し、誘導の必要な方へは、適切な時間に排泄の誘導や排泄介助ができるよう配慮している。その方のしぐさなどからサインを見逃さないように努め、お誘いの言葉も、一人ひとりに合った形で工夫している。	○	排泄パターンが変化してきた方もいるため、状態に合わせて支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	それぞれのその日の気分を確認し、入浴の声かけ、介助を行なっている。	○	毎日9人全員の方に入浴いただくのは難しく、2日に一度が基本的なペースとなっている。職員がそれぞれの利用者の様子を確認し、段取りを行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方のペースに合わせて、自室で過ごしたり、ソファで横になったり出来るよう支援している。夜間良眠出来るよう、日中の活動量や、安心できる飲み物、清潔な寝具、室温等の環境整備に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、買物、調理、洗濯物、菜園、ドライブ、系列デイサービスの催し物への参加など、生活暦に合わせた役割や、気晴らしになるような支援をしている。	○	引き続き、細やかなアセスメントを充実させ、一人ひとりにとって、より楽しみとなる出来事や、豊かで潤いのある生活になるような支援に向けて一緒に取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に小口の預かり金をご家族からお預かりし、必要時に使用している。一緒に買物に出かけ、選んでいただくことがある。また、友人との会食がある方は、ご自分で管理している財布を使用している。	○	同上
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゴミ出しを兼ねた散歩は、毎日行なっている。食材の買物も、車で利用者と一緒に出かけ、できるだけ外出の機会を持てるように努めている。ゆとりがある場合は、個別に外出の援助を行なっている。	○	同上
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた花見、初詣、イチゴ狩りなどを楽しむ機会を作っている。ご家族のご協力により、気晴らしの外出、墓参などが行なわれている。	○	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった場合などには、電話でお話しすることで安心を感じていただいている。暑中見舞いや年賀状など、ご家族や知人との交流を行なうための支援を行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人等の訪問にはいつでも気軽に足を運んでいただいている。他の利用者にとっても馴染みの関係になり、くつろいで会話をしている様子が見受けられている。お茶やお菓子をお出しして、ゆったりと過ごしていただけるように心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての知識の確認を、会議や資料により都度確認し、身体拘束ゼロ宣言を行なっている。	○	身体拘束ゼロの意味に関する新人への教育が行き届いていない。さらに、言葉による拘束の可能性の危険を共通認識として浸透させていく必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は誰でも自由に出入りできるようにしている。夜間のみ、防犯上の観点と職員の少人数体制のため、居室と玄関に施錠を行なっている。	○	引き続き、細やかなアセスメントを充実させ一人ひとりにとって日常生活が安心して安全であり、より快適な生活が送れるように支援していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全面での所在確認の為、玄関にセンサーがあり、感知した音に対し、必ず確認を行なっている。ホールには見守りの職員ができるだけいるよう、連携している。	○	同上
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	処方薬は利用者の目の届かない所に保管し、刃物、針などの危険を伴うものは、手の届かない場所に保管するなどの対応を行なっている。	○	同上
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別に歩行の見守りの強化、誤嚥防止の為の食事中的見守り強化、誤薬防止の為のチェック体制の確立に努めている。緊急連絡網の模擬訓練の実施、インシデント、事故報告書などにより、事故やヒヤリハットの分析と、再発防止への取り組みを行なっている。	○	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急マニュアルや緊急対応の書籍をスタッフルームに常設している。緊急時連絡先と手順を整備している。初期対応の訓練を実施している。	○	初期対応などの訓練の機会が少ない。より頻繁に訓練を行い、常時全職員が周知徹底できるように努めていく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の防災訓練、系列施設と共同の防災訓練の実施がされている。備蓄品の確保。運営推進会議を通して、町内の方々との協力をすすめている。	○	引き続き、定期的な防災訓練や地域の方との協力、地域の訓練への積極的な参加を通し、災害や緊急時に適切な対応が行なわれるよう体制や意識の充実に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時、または身体状況のレベルに応じて、起こりうるリスクへの説明を行い、ご理解をいただきながら、優先したい対応やご家族のお考えを確認している。	○	入所されている方のADLが年々変化しており、ますますリスクが高まっていると感じられる。ご家族との連絡、相談をより密に行い。充実した対応が行なわれるよう努めていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、食事量、水分量、排泄、服薬、睡眠などの記録と、入浴時などの身体状況の確認、痛みや不調の訴えやサインに常に留意し、情報の共有をしている。	○	同上
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬包の管理、内服支援は、何重にもチェックする仕組みを確立している。	○	各利用者の薬の内容を全職員が周知するところまで徹底する必要がある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便の状況をチェックし、記録に残している。排便の周期、状態の確認にて、個々の対応をしている。食事や飲み物は、乳製品、野菜などを積極的にとることを意識して準備しており、また、便秘がちな状況の際は、処方された下剤を使用するだけでなく、腹部マッサージや、朝起き掛けの飲水をすすめている。	○	引き続き、一人ひとりの身体状況に合わせ、健康上の不安のない生活が出来ただけ続くよう、細やかな観察とアセスメントを行い、的確な支援ができるよう努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝時の口腔ケアを徹底して行なっている。朝食後、昼食後は、行なえる方のみ。外出後のうがい、手洗いは、徹底されている。	○	朝食後、昼食後の口腔ケアの充実の必要がある。習慣として固定するように、職員の体制も工夫の余地がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、嗜好、体重、運動量、身体状況により、個別に盛付け量を調整し、摂取量の調整を行なっている。水分は食事の時やおやつのお時間にこわえ、入浴後や体操後にもすすめている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会に月一回参加し、系列全体として常に新しい情報を得て、対策を実施している。年間を通じ、テーブル消毒、換気、環境整備を行い、季節ごとの感染症の対応策も全職員の共通認識として、職員会議や連絡ノートなどで周知徹底している。	○	お手洗いのあとや食事前の、利用者の手洗いの徹底を、さらに充実して取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材、調理物の扱いに対する取り決めや、使い捨ての手袋の使用、まな板や布巾の漂白消毒を徹底している。食材の消費期限など状態のチェックを毎日行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口には花壇を設置し、施設名がわかるように掲示してある。玄関内には飾り物やベンチ、花など、馴染みやすい雰囲気を感じてもらう工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間は季節の花や歳時、写真の盛り付けなどを行い、季節感を出来るだけ取り入れるよう工夫をしている。ゆったりとしたソファ、高い天井の空間は、訪れた方々に温かな雰囲気を感じ取っていただける一端となっている。	○	利用者にとっての快適な空間というものを常に考慮し、職員の大きな声やしぐさが利用者に影響する要因であることを認識し、くつろげる空間を創っていくように努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居間の中に、それぞれが気に入ったソファなどのスペースがあり、シーンに合わせて自由に身を置いている様子が見受けられる。	○	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、なじみの家具等を入れていただけるようにご家族に説明し、それぞれの居室作りをしている。大切な方の写真や、アルバムなど、できるだけ個性のある空間を作り出せるよう、工夫をしている。	○	同上
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気をし、環境整備チェック表に記録をし、確認を行っている。	○	同上
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーである。手すりは、廊下、浴室、トイレなど、必要に応じて取り付けられている。各居室に個人専用のトイレがある為、その往復も歩行運動として機能している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に個人専用のトイレがあり、ご自分の居室が完全にご自分のものであることを認識していただくための設備は整っている。必要時には、ご自分の居室に誘導することで穏かに過ごしていただくことができる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室や居間からは菜園や洗濯干し台のある庭に自由に出られる。時にお誘いして、一緒に菜園の野菜を収穫し、食事に使用している。ベンチを使用して、外気浴を行ったり、花火をみる機会もある。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

オープンして三年目を迎え、利用者の身体レベルが少しずつ変化してきています。状態に合わせた支援を全職員が心がけ、家事などを一緒に行い、ともに支えあうことができるよう工夫をし、皆さんに出来るだけ参加していただけるようにしています。様々な人間関係が存在し、日々様々な出来事が起こります。安心して穏かに暮らしていただけるよう、職員同士が情報を共有し、アイデアを出し合いながら計画的なケアを継続していくことを目標に。それぞれの利用者にとって居心地の良い場所を作っていけることを目指していきます。